

第5回セミナー「SDGsを考える」

～大阪・関西万博／CSV大学の取組みから～

～目指せ！日本一ゆる～い産学官金協同体～(略称:ゆる協)

中小機構東北本部では、41名の方に参加いただきセミナーを開催いたしました。

●日時:平成31年3月6日(水)

●会場:中小企業基盤整備機構 東北本部 セミナー室

●ゲスト:公益社団法人 関西経済連合会 産業部 副参与 南部 達彦氏

一般社団法人 CSV開発機構 専務理事 小寺 徹氏

※参加者41名！事業者・行政・支援機関等の多様な参加者が多く、新たな発見・気づきが生まれる期待！



【プログラム】案内人:中小機構東北 経営支援部長 中島康明
16:00 主催者挨拶 中小機構東北 本部長 高村 誠人
16:10 第1部 <識る>「SDGsを考える」セミナー
17:30 第2部 <関わる>パネルディスカッション・質疑応答
18:30 第3部 <始める>交流会・ネットワーキング(会費制)

※パネルディスカッション・質疑応答にて、SDGsの動きについての気づきを得る！

第1部<識る>「SDGsを考える」セミナー

第2部<関わる>パネルディスカッション・質疑応答

南部達彦氏は、大阪・関西万博とSDGs・東北との関わり方について語る

・万博開催目的=「人類社会の課題解決の場」、「日本の社会課題の解決力」と「2025年の未来社会の可能性」を示す場と定義。
・「バックキャスト」、「オープンイノベーション」等をキーワードに多様な主体が「Co-Creation」する機会及び場ととらえ、東北の方もいろいろ関わって欲しい。

小寺徹氏は、Creating Shared Value(共有価値の創造)の目指すものとCSV大学(弘前市)の事例などについて語る

・CSVは、社会課題とビジネス上の課題の両方に対応することで生み出され、企業の成功と社会の発展を結びつけることと定義。
・社会課題の解決を目的とし、新事業の創出、実装によるしごとづくり、ひとづくりを目標に活動。(青森県弘前市事例、森林SDGsモデルについて説明。)

気づきの声！！
Q:万博成功に向けSDGsの浸透策は？
A:実生活の身近なレベルで感じてもらえるようにする方策を考えていく。また、若い人は課題意識が高い。社会解決に取り組むことがカッコいいこと、楽しめる仕事と捉える感性がある。
仲間や外のひとと語らい万博の機運に乗じて企画をどんどん提案していけばよい。

Q:注目されるビジネスに大切な事は？
A:ユニークになるために闘うこと。マイケル・ポーターからの言葉「最も大切なことは「やらないこと」を決めること。」
Q:下請け企業の場合、どのようなCSVの取組が考えられるか
A:地域の中小企業は地域課題がすぐく見えているはず。その地域で今まで長年継続してきた自分の価値を見つめ直すことから始めよう。

第3部<始める>交流会・ネットワーキング(会費制)

アンケートより



※交流会にて、第1部、第2部の緊張をアルコールでほぐしながら、意見交換を行う。
積極的に名刺交換等を行い、ゆるい連携が始まる。

気づきの声！！
○ 持続可能な暮らしを伝える、作る
○ SDGsという共通語を活用した新事業の推進
○ CSVを地域の中小企業広めることが必要に感じました。

と言った声を頂きました！！